

(1) 報告事項

- ア 任意協議会 第4回会議の協議内容について
- イ 議会議員の定数及び在任等に関する小委員会
第1回会議の協議内容について
- ウ 都市内分権に関する小委員会 第1回会議の協議
内容について
- エ 前々回（平成29年2月4日開催）の調査特別
委員会（市議会シンポジウム）におけるアンケート
結果概要について
- カ 議会議員の定数及び在任等に関する小委員会
第2回会議の内容について
- キ 都市内分権に関する小委員会 第2回会議の内容
について

平成29年 3 月 16 日

目 次

小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会 出席報告書	2
議会議員の定数及び在任等に関する小委員会 出席報告書	8
都市内分権に関する小委員会 出席報告書	11
県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果概要	13
議会議員の定数及び在任等に関する小委員会 第2回会議の内容について	20
都市内分権に関する小委員会 第2回会議の内容について	20

ア 任意協議会 第4回会議の協議内容について

小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会 出席報告書

平成29年 3 月16日

小田原市議会

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会

報告者

委員長 今村 洋一

副委員長 大村 学

委員 井原 義雄

委員 加藤 仁司

第4回会議 の協議内容（概要）について、次のとおり報告いたします。

日 時	平成29年2月14日（火） 13時30分から17時30分	
場 所	神奈川県小田原合同庁舎 3階DEF会議室	
出席者	協議会委員29名（欠席4名）	
本市傍聴議員	17名（議長、副議長、調査特別委員3名、ほか12名）	
議 事		結 果
協議事項	<p>【総括的項目】</p> <p>協議第13号 平成29年度事業計画について</p> <p>協議第14号 平成29年度歳入歳出予算について</p> <p>【合併関係項目】</p> <p>協議第15号 小委員会の設置について<追加></p> <p>協議第16号 事務所（本庁舎）の位置について</p> <p>協議第17号 財産の取扱いについて①</p> <p>協議第18号 農業委員会委員の定数及び任期の取扱いについて</p> <p>協議第19号 特別職職員（議員を除く）の身分の取扱いについて</p> <p>協議第20号 使用料、手数料等の取扱いについて①</p> <p>※施設の統廃合や現状の両市の使用料等の差の擦り付けについては、今後、行財政改革の視点からも具体的な議論をしていくことです承。</p>	<p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p> <p>原案承認</p>
報告事項	<p>【合併関係項目】</p> <p>報告第11号 その他の事務事業調整について</p> <p style="text-align: right;">(BCランク) ①</p>	<p>確認</p>

その他	○第5回会議の予定について	確認
委員会意見	<p>平成29年2月7日（調査特別委員会 意見の取りまとめ）</p> <p>1. 任意協議会に係るものとして</p> <p>(1) 住民が判断する題材としての議論を協議会の中で、充分行う。 特に協議第18号については、農業委員会委員の任期の問題また法律で定められた定数と特例を使った定数の問題、そのような中でどのような影響が生じるのか等意見交換・議論をしなければならないと考えている。</p> <p>(2) 重要な協議事項については、きちんと採決をとるよう要望として挙げる。</p>	
協議会対応	(1)、(2)については、質疑等の中で議論され、対応された。	
<p>主な質疑・意見、回答（※概要・趣旨・小田原市議会選出議員の発言 等）</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>・議事に入る前に、重要な協議事項については、しっかりと採決を取るよう要望がある。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>【総括的項目】</p> <p>協議第13号 平成29年度事業計画について</p> <p>資料に基づき、事務局から説明される。</p> <p>【今村洋一委員】</p> <p>市民アンケートの実施の中でアンケート内容であるが、合併方式が決まりいろいろな事業の実施時期も4月から5月初旬とした中で、「権能強化策としての中核市への移行についての認識」と「周辺自治体との広域連携についての認識」とあるが、その内容はどのようなものなのか。どういった目的なのか。</p> <p>【回答】</p> <p>現時点では、当協議会の中ではしっかりとした議論はされていないが、市民の方の認識や考え方を把握するという目的である。設問についてはこれから整理をしていくが、市が「権能強化策として中核市へ移行すること」についてどう思われるのか、また「広域連携をすることについて」どう思われるのかを主に行う。</p> <p>【今村洋一委員】</p> <p>少し拙速であると思う。合併の方式が決まり検討していくという中で、最終的にまとまらなければ南足柄市民には意味がないのではと思う。アンケートを出すことによって、結局、中核市を目指して小田原市と南足柄市が一緒になるという誤った認識のすり込みが懸念される。</p> <p>まず、中心市としてこれからどういう自治体としてあるべきか。そして市民がどう感じて</p>		

おられるのか。そのような認識の下でのアンケートを行うべきで、もう少し検討して行うべきと考える。

確認であるがアンケート内容についてはこの協議会で協議されるものなのかそれとも事業計画どおり事務局が行うことで、この場で承認した場合事務局が行うのか。

【回答】

アンケートの設問内容については、このようなアンケートを実施するという事で事前に内容について確認していただくということで、協議項目として今後、協議していただくということは想定していない。

【今村洋一委員】

報告という形で構わないため、柔らかい段階で説明していただきたいと思う。

【加藤憲一会長】

前段の内容は、これから先の作業に反映していくということでよろしく願います。

【加藤仁司委員】

市民アンケートの発送数について、統計学上必要なサンプル数ということであるが、過去に小田原市議会でアンケート調査した時には「約 3,000 通を発送することで客観的な数値として出てくる」ということを聞いたことがあるが、今回のやり方では、まず半数に分けて残りの半数を人口比率で按分するとある。小田原では 3,000 通発送するという形をとらないと統計学上サンプル数は取れないのでは。

【回答】

統計学上必要とされるサンプル数は計算式に基づき算出したが、両市の合計として 3,600 通と出された。これを根拠としている。

【加藤仁司委員】

小田原市と南足柄市で按分するという事は、人口比で出すのが普通ではないのか。おおよそ人口比が 5 : 1 であるなら 3,600 通を 5 : 1 で按分して出すのが通常ではないのか。なぜ、まず半数の 1,800 通を均等に分けた 900 通に残りの半数を人口比で按分した数を合わせた形としているのか。

【回答】

按分の考え方であるが、標本誤差を 3%以下と想定し約 1,000 人からの回答があれば標本誤差が 3%以下になる。返送率が 30%と見込んでおり、3,600 通発送としている。そして半数の 1,800 通を均等に分けた 900 通ずつを、そして残りの半数を人口比で按分した数とした。全体を人口比率で按分し発送するという考えもあるが、今回は返送率等を検討した結果、半数は均等に、残りの半数は人口比按分とした。

【加藤仁司委員】

数値が客観的に見ることができるのかは、学者に見解をしていただければと思う。

【加藤憲一会長】

その辺については、協議会委員の大杉教授、牛山教授とも相談しながらその結果を報告したいと考える。

【その他意見・質疑等】

- ・事業計画について協議会で決めた内容等についてどのような成果であったということ、フィードバックしていただきたい。

協議第14号 平成29年度歳入歳出予算について

資料に基づき、事務局から説明される。

【大村 学委員】

歳入予算額の内訳が小田原市と南足柄市とで2分の1ずつであるが、その根拠が何か。

【回答】

当初の協議の段階で、両市間でお互い対等の立場であることから、半々の折半とした。

【合併関係項目】

協議第15号 小委員会の設置について

資料に基づき、事務局から説明される。

※委員構成

○規約第6条第1項第1号及び第5号の委員

：両市の副市長1名ずつ

：両市の議会の議員であって当該協議会の議長が推薦するもの1名ずつ

○規約第6条第1項第7号ア及びウ並びにエの委員

：自治会関係団体2名ずつ

：福祉関係団体2名ずつ

：教育関係団体1名ずつ

【今村洋一委員】

「都市内分権に関する小委員会規程」の第2条第1号に関連して、都市内分権とは具体的にどのようなイメージであるのか。

【回答】

合併特例法の措置として、先行事例を参考に説明し、理解されて上で進めたいと考えている。まず、地域審議会とは区域の事務について市長から諮問された内容について審議する機関で、法人格を有しない。地域自治区とは重要事項について地域協議会を設けその協議会で協議する機関で、法人格を有しない。合併特例区は予算等の重要事項を定めるものであり、特別職を置き、設置期間を5年以内として設置し法人格を有する。

【今村洋一委員】

何を協議するのか。

【回答】

合併した場合、どのような制度選択をするかというものを協議していただく。

【その他意見・質疑等】

- ・小委員会の協議結果について、協議会の第7回会議（5月予定）までに報告するとあるが、期間的にも内容的にもまとめることができるのか。

- ・小委員会を設置し会議を進める中でも、市民の目として大きな課題である。制度の適用等に関することは不明であるため、きちんとした説明を改めていただきたい。

協議第16号 事務所の位置について

資料に基づき、事務局から説明される。

質疑等なし

協議第17号 財産の取扱いについて

資料に基づき、事務局から説明される。

【その他意見・質疑等】

- ・基金設立の目的の調整は難しいため、どのように調整したかを示す必要はある。

協議第18号 農業委員会委員の定数及び任期の取扱いについて

資料に基づき、事務局から説明される。

【今村洋一委員】

農業委員会委員は平成31年に改選となる。農業環境が厳しく激変している中で、合併を平成32年と想定しており、在任特例として2年となるかと思うが、農業委員会委員26人、農地利用最適化推進委員22人で対応できるものなのか。また、特例措置後も全体の人数は計48人で変わらないのであるが、48人で取り組んでいくことでよいのか。

【回答】

行財政改革の観点から、農業環境の変動を考慮しながら農業委員会委員19人、農地利用最適化推進委員29人という案を提示させていただいた。

協議第19号 特別職職員（議員を除く）の身分の取扱いについて

資料に基づき、事務局から説明される。

質疑等なし

協議第20号 使用料、手数料等の取扱いについて

資料に基づき、事務局から説明される。

【今村洋一委員】

一番の課題となるべき公共施設の問題の考え方を示すというのはわかるが、統廃合の議論は合併後の議論とするのか、あるいはこの協議会でできるものもあるのではないのか。そういった取捨選択を示すべきかと思う。例えば清掃工場の問題など現実的に問題となっているものはできると考える。

また、今回提示の資料は膨大な量であるが、これは全体の一部ですよ。これを市民が見てわかるのかどうか。例えば「小田原市と南足柄市の水道料金は、今後このようになっていきます。合併した場合はこのようになります。」などを示さないと、これだけの量を示す中で正しく理解できるとは思えない。資料作りの工夫をお願いしたい。

料金に差がある両市の下水道料金等、それらをすり合わせていく方法等について部会、

分科会で話が出なかったのか。

【回答】

議論をする中で関心の高いものについては、議論をする時間を設けたい。

資料の提示、説明についてはわかりやすい工夫したものを心掛けたい。

料金設定については、現状調査と将来を見据え、経過措置等も考慮し議論をするとともに、今後も検討して行く。

【大村 学委員】

施設の統廃合についての具体的な協議はいつごろを予定しているのか。10回の会議の中で行うのか。

【回答】

この協議会の中では具体の統廃合の議論までは行わない。施設分野ごとにどういった課題があるかといった整理をする考えである。

【その他意見・質疑等】

- ・施設の統廃合や市民サービスをどのようにしていくのかの議論をすることが、まず先であると思う。行財政改革の観点からも必要と思われる。
- ・使用料や手数料の付け合せも必要であろうが、まずは施設の機能や将来のあり方、その統廃合についての関心があると思われる。
- ・子育て世代にとっては負担減となる内容については理解できると思われるが、小田原市と南足柄市とでは形態が異なる面もあることから、聞き取り等を行い検証すべきと考える。

(2) 報告事項

【合併関係項目】

報告第11号 その他の事務事業調整について（BCランク）①

資料に基づき、事務局から説明される。

【その他意見・質疑等】

- ・資料25ページの「友好都市交流事業」を廃止する理由について
- ・南足柄市でも新規の事業が予定されているものがあるが、これら新規事業についても事務事業調整に加えるのか。

4 その他

(1) 第5回会議の予定について

日時：平成29年3月28日（火）午後1時30分から

場所：小田原市役所 大会議室

【その他】

- ・小委員会については、第7回会議までに協議結果を報告するものとあるが、なるべく協議する時間を多く設けていただきたい。（要望）

※当該報告書は、概要であります。協議会会議における会議録と一致しません。

イ 議会議員の定数及び在任等に関する小委員会 第1回会議の協議内容について

議会議員の定数及び在任等に関する小委員会 出席報告書

平成29年 3月16日

小田原市議会

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会

報告者

委員長 今村 洋一

副委員長 大村 学

委員 井原 義雄

委員 加藤 仁司

小委員会規程第5条第5項の規定により、会議は非公開とされるが、会議概要は公表するものとするため、**第1回会議**の協議内容（概要）について、次のとおり報告いたします。

日 時	平成29年2月24日（金）15時30分から16時40分	
場 所	小田原市役所 3階 301会議室	
出席委員	「議会議員の定数及び在任等に関する小委員会規程」第3条第2項に規定の委員（小田原市議会選出議員4名、南足柄市議会選出議員4名） ※井原委員欠席	
事務局	任意協議会事務局（小田原市企画部企画政策課広域政策担当） 任意協議会分科会（小田原市議会事務局・南足柄市議会事務局各分科会担当）	
議 事		結 果
正副委員長 選出	1 委員長及び副委員長の選出について	委員長 今村洋一 副委員長 加藤洋一
確認事項	2 所掌事務の確認について (1) 議会議員の定数について (2) 議会議員の定数及び在任の特例の適用に関すること (3) 議会議員の報酬に関すること 3 検討スケジュールの確認について	確認 確認
協議事項	4 協議事項 (1) 定数及び在任の特例の適用について	両市議会において十分に協議を重ね、次回の小委員会で結論を出す
その他	次回開催について	4月中旬

委員会意見	
委員会対応	
主な質疑・意見、回答等（※概要・趣旨・小田原市議会選出議員の発言）	
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）委員長及び副委員長の選出について</p> <p>任意協議会事務局長の進行により、当小委員会規程第4条第2項の規定に基づき、委員長及び副委員長は委員の互選により選出された。</p> <p>委員長：今村洋一 （小田原市議会議員：県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員長）</p> <p>副委員長：加藤洋一 （南足柄市議会議員：県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員長）</p> <p>以下の議題について委員長による議事進行</p> <p>（2）所掌事務の確認について</p> <p>ア 議会議員の定数に関すること イ 議会議員の定数及び在任の特例の適用に関すること ウ 議会議員の報酬に関すること</p> <p>任意協議会事務局から「議会議員の定数及び在任等に関する小委員会規程」に基づき説明され、所掌事務について確認した。</p> <p>【今村委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費の協議取扱いについて ・所掌事務の協議の取扱いについて <p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政務活動費については、小委員会の協議事項とはしていない。その他の事項として小委員会の中での意見交換は可能であるが、それらの意見等は事務局又は部会での検討の参考とする。 ・合併後一定期間の扱いについては特例の適用に関するものを協議し、最終的な取扱いとして定数を定める協議をする。 <p>（3）検討スケジュールの確認について</p> <p>任意協議会事務局から今後の検討スケジュールについて説明され、日程を確認した。</p> <p>【今村委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定数及び在任の特例の協議は時間がかかると思われる。こまめに小委員会の開催をする必要があると思われる。 ・委員以外の者からの説明や助言については、スケジュール調整等の関係からある程度まとまった形を文書で示し、その内容について回答をいただく等、文書でのやり取りを考えたい。 	

【加藤仁司委員】

・特例の適用に係る協議、検討は時間を要するため、次回の開催は4月下旬という案も考えられる。

○取りまとめ

・定数及び在任の特例の適用に関する協議は、両市議会内で十分協議をする必要があることから、第2回の小委員会については平成29年4月中旬に開催すること。また、小委員会規程第5条第4項の規定に基づく委員以外の者からの説明又は助言については、ある程度方向性がまとまった段階で、文書で対応することで確認された。

(4) 協議事項

ア 定数及び在任の特例の適用について

任意協議会事務局から関係法令（市町村合併の特例に関する法律第8条及び第9条）の規定内容が説明される。

また参考として、議会分科会担当から県内他市の議員報酬等の状況の説明や特例を適用した場合ごとに必要とされる議員報酬等の説明がされる。

○取りまとめ

・定数及び在任の特例の適用に関する協議は、両市議会内で十分協議を行い、第2回の小委員会にて方向性を決めることとした。

【その他】

次回（第2回）会議は4月中旬としたが、具体的な日程調整を今後行い、日程を確定する。

※当該報告書は、概要であります。小委員会規程に基づく報告内容とは一致しません。

ウ 都市内分権に関する小委員会 第1回会議の協議内容について

都市内分権に関する小委員会 出席報告書	
平成29年 3 月 1 6 日	
小田原市議会 県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会	
報告者 委 員 井 原 義 雄	
小委員会規程第5条第5項の規定により、会議は非公開であるが会議概要は公表するものとするため、 第1回会議 の協議内容（概要）について、次のとおり報告いたします。	
日 時	平成29年3月15日（水）18時30分から
場 所	南足柄市役所
出席委員	「都市内分権に関する小委員会規程」第3条第2項に規定の委員 ・両市副市長・・・規約第6条第1項第1号 ・両市議会議員・・・規約第6条第1項第5号 ・自治会関係団体・・・規約第6条第1項第7号ア ・福祉関係団体・・・規約第6条第1項第7号ウ ・教育関係団体・・・規約第6条第1項第7号エ
事務局	任意協議会事務局（小田原市企画部企画政策課広域政策担当）
議 題	内容は次ページのとおり 1 委員長及び副委員長の選出について 2 検討事項について 3 仕組みの概要について 4 検討スケジュール
その他	内容は次ページのとおり
主な質疑・意見、回答等（※概要・趣旨・小田原市議会選出議員の発言）	

※当該報告書は、概要であります。小委員会規程に基づく報告内容とは一致しません。

1 委員長及び副委員長の選出について

委員長：南足柄市副市長

副委員長：小田原市副市長

2 検討事項について

現状と課題、課題対応の視点を確認し、合併により編入される南足柄市域に生じ得る行政・地域間の連絡調整に係る懸念や課題の解消を図る方策を見出すことを目的として、法制度に基づく地域機関の設置または法制度によらない独自の仕組みの導入について、調査・検討を行うものとする。

検討事項として、次の事項について調査・検討を行う。

- (1) 法制度上の仕組み（地域審議会、地域自治区、合併特例区）を活用した場合の効果と課題
- (2) 両市の既存の仕組みを統合した仕組みを活用した場合の効果と課題
- (3) 以上を踏まえて最も望ましいと考えられる仕組み

3 仕組みの概要について

市民意見の適切な把握及び行政と地域との間の諸調整の円滑化を可能とする仕組みとして、地域審議会等の3つの法制度上の仕組み及び両市の既存の仕組みについて確認するとともに、合併の先行自治体における仕組みの導入事例について確認した。

合併後の南足柄市域の方々の声を如何に行政に反映していくか、そのためにはどのような仕組みを活用していくかが論点となる。

また、施行時特例市以上の合併自治体における法制度上の仕組みの活用件数としては、次のとおり。

- (1) 地域審議会の活用：42件、
- (2) 地域自治区の活用：9件、
- (3) 合併特例区の活用：7件、
- (4) (1)(2)(3)の仕組みの活用なし：31件

4 検討スケジュール

第2回：平成29年4月12日（水）14：00～16：00 小田原市

法制度上の仕組みの効果と課題について

第3回：平成29年4月24日（月）14：00～16：00 南足柄市

既存の仕組みの効果と課題について

第4回：平成29年5月上中旬

最も望ましいと考えられる仕組みの取りまとめ

第7回任意協議会（5月30日開催）に結果報告

その他

小委員会において検討対象とする都市内分権は、合併後における南足柄市域の住民意見の適切な把握及び行政と同地域との間の諸調整の円滑化を可能とする仕組みについて調査・検討を行うことを確認し、次回に臨む。

エ 前々回（平成29年2月4日開催）の調査特別委員会（市議会シンポジウム）におけるアンケート結果概要について

県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

開催日時：平成29年2月4日（土）18時30分から20時30分
 開催場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室1, 2, 3
 参加者（参加依頼団体及び一般市民、報道機関）：104名

■参加者構成

	一般参加者				任意協議 会より	報道	合計
	男	女	不明	計			
小田原市	52	13	0	65	16	4	104
				77%			
南足柄市	7	0	0	7			
				8%			
その他	9	2	0	11			
				13%			
不明	0	0	1	1			
				1%			
計	68	15	1	84	16	4	104
				100%			

■市議会シンポジウムアンケート

性別	男	女	不明	計
	60	17	11	88
	68.0%	19.0%	13.0%	

年齢	男	女	不明	計
10代	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	5	2	0	7
	8.0%	12.0%	0.0%	8.0%
40代	9	3	1	13
	15.0%	18.0%	9.0%	15.0%
50代	16	5	3	24
	27.0%	29.0%	27.0%	27.0%
60代	13	1	2	16
	22.0%	6.0%	18.0%	18.0%
70代	12	5	5	22
	20.0%	29.0%	45.0%	25.0%
80代以上	5	1	0	6
	8.0%	6.0%	0.0%	7.0%
不明	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	60	17	11	88
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

居住地	男	女	不明	計
小田原市内	42	13	7	62
	70.0%	76.0%	64.0%	70.0%
小田原市外	13	3	1	17
	22.0%	18.0%	9.0%	19.0%
不明	5	1	3	9
	8.0%	6.0%	27.0%	10.0%
合計	60	17	11	88
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■第1部 基調講演について

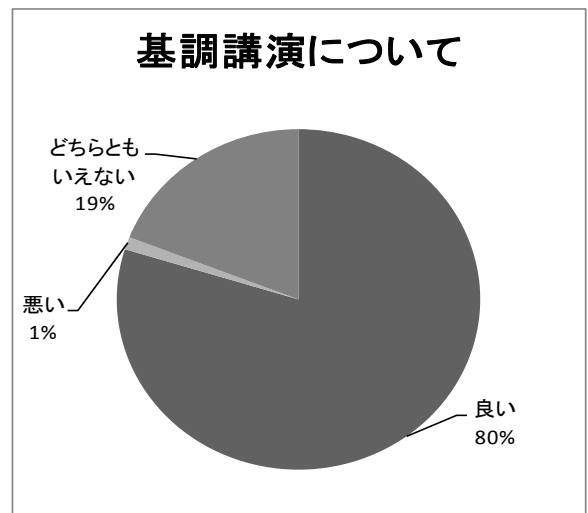
	男	女	不明	計
良い	47	11	9	67
悪い	1	0	0	1
どちらともいえない	9	5	2	16

○今後も同様の講演会の実施を

	男	女	不明	計
希望する	55	14	11	80
希望しない	0	2	0	2

○時間配分について

	男	女	不明	計
短い	11	1	1	13
長い	2	1	1	4
ちょうど良い	45	14	9	68

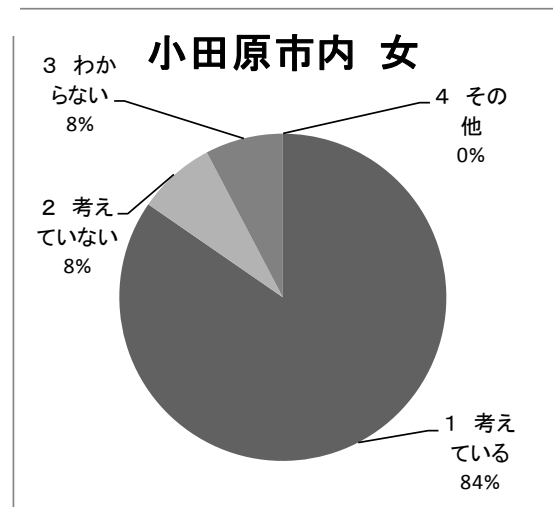
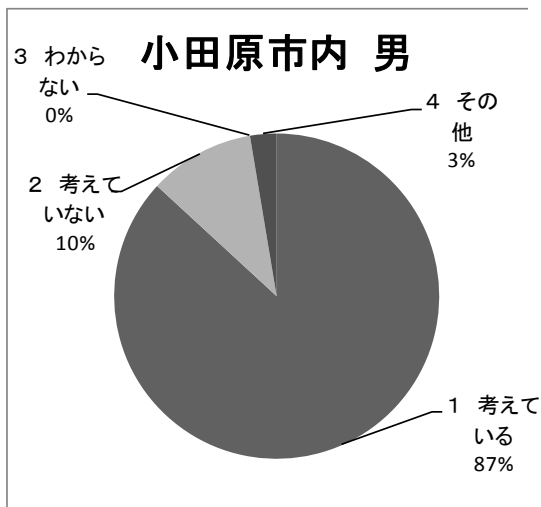


県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

I 小田原は、神奈川県西部の中心的な役割を持つ市であるとお考えですか

設 問	回答数	回答割合 (%)	備 考
1 考えている	62	84.9	
2 考えていない	8	11.0	
3 わからない	2	2.7	
4 その他	1	1.4	問いに対する情報がないため答えられない
計	73	100.0	

居所	性別		1 考えている	2 考えていない	3 わからない	4 その他	問いに対する情報提供願
小田原市内	男	計	33	4	0	1	
	女	計	11	1	1	0	
		市内計	44	5	1	1	
小田原市外	男	計	10	2	1	0	
	女	計	1	1	0	0	
		市外計	11	3	1	0	
不明	男	計	6	0	0	0	
	女	計	1	0	0	0	
		不明計	7	0	0	0	
合計			62	8	2	1	

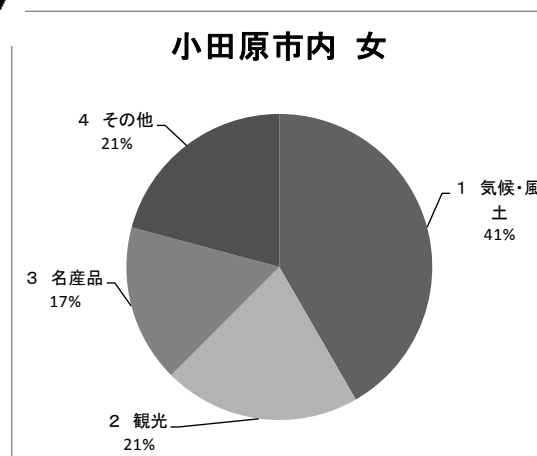
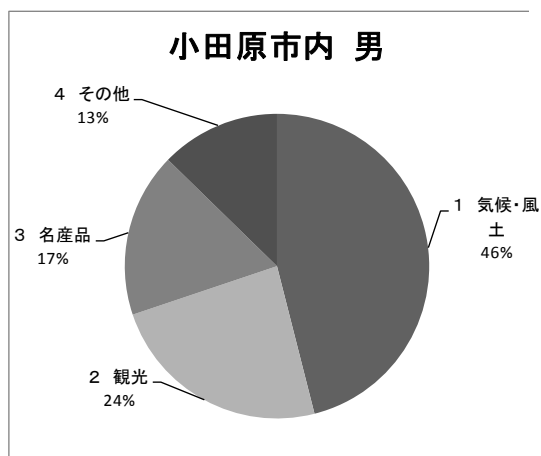


県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

Ⅱ 小田原を他所の方に語る時、どのようなお話をしますか。(複数回答)

設 問	回答数	回答割合(%)	備 考
1 気候・風土	50	42.4	
2 観光	32	27.1	
3 名産品	20	16.9	
4 その他	16	13.6	歴史・文化、環境の良さ・交通の利便性、箱根の隣
計	118	100.0	

居所	性別		1 気候・風土	2 観光	3 名産品	4 その他	備 考		
							歴史・文化	環境の良さ・交通の利便性	箱根の隣
小田原市内	男	計	29	15	11	8			
	女	計	10	5	4	5			
	市内計		39	20	15	13			
小田原市外	男	計	3	6	4	2			
	女	計	2	2	0	0			
	市外計		5	8	4	2			
不明	男	計	5	3	1	1			
	女	計	1	1	0	0			
	不明計		6	4	1	1			
合計			50	32	20	16			

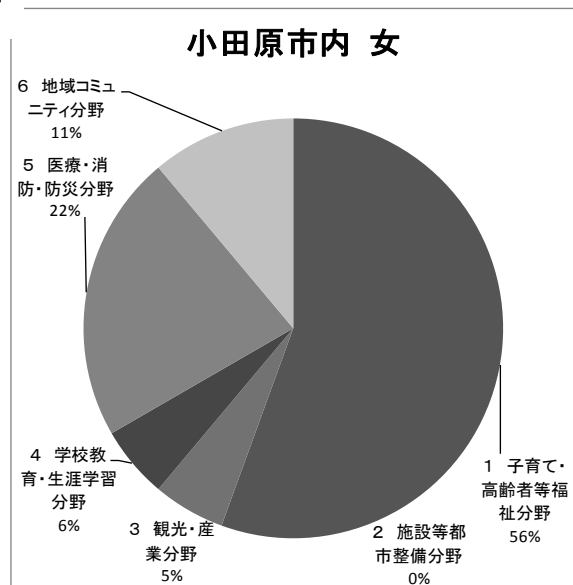
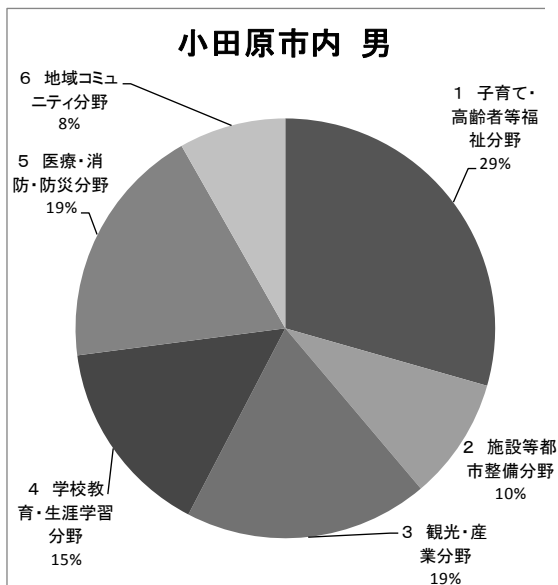


県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

Ⅲ 今後、重点を置くべきと考える行政の仕事は何とお考えですか。(複数回答)

設 問	回答数	回答割合(%)	備 考
1 子育て・高齢者等福祉分野	50	35.2	
2 施設等都市整備分野	11	7.7	
3 観光・産業分野	27	19.0	
4 学校教育・生涯学習分野	14	9.9	
5 医療・消防・防災分野	25	17.6	
6 地域コミュニティ分野	15	10.6	
7 その他	0	0.0	
計	142	100.0	

居所	性別	1 子育て・高齢者等福祉分野	2 施設等都市整備分野	3 観光・産業分野	4 学校教育・生涯学習分野	5 医療・消防・防災分野	6 地域コミュニティ分野	7 その他
小田原市内	男	計	25	8	16	13	16	7
	女	計	10	0	1	1	4	2
	市内計	35	8	17	14	20	9	0
小田原市外	男	計	8	2	6	0	2	2
	女	計	2	0	1	0	1	1
	市外計	10	2	7	0	3	3	0
不明	男	計	5	1	2	0	2	2
	女	計	0	0	1	0	0	1
	不明計	5	1	3	0	2	3	0
合計		50	11	27	14	25	15	0



県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

IV 今、あなたの周りで行政が改善すべきと思うものは何ですか。

		IV 今、あなたの周りで行政が改善すべきと思うものは何ですか。	
小田原市内	男	30代	
		40代	<ul style="list-style-type: none"> コンパクト行政 扶助費(特に医療費無償上限を引き上げ)について財政措置費用(予算)を確保する。
		50代	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援 公共施設の統廃合 コンプライアンス、情報公開 市職員の給与体制を改善すべき 経費削減。ホールやホテルより市民病院を。
		60代	<ul style="list-style-type: none"> 駅前開発は都市部、ホールは文化部、地下街は経済部というように分けなくて、総合的に考え進めていくこと。このことによって歳出の無駄は抑えられ、有効にお金が使われる。 今回の議論のように、もっと積極的に小田原市の現状をPRし市民に考えさせるチャンスをつくること。 中心市街地の高度利用
		70代	<ul style="list-style-type: none"> 城下町小田原を意識した街づくり 元気な高齢者はそれなりに働かないと、財政がもたないのでは。 財政基盤の強化。 生活保護費をこれ以上増やさないと。 道路の修理保全 世界相手の国際観光政策の拡充化 福祉、教育
		80代以上	<ul style="list-style-type: none"> 効率的行政サービス
	女	30代	<ul style="list-style-type: none"> 行政の「お客様」に対する対応が悪い。 情報公開が不足でありファミリーサポート等、子育て支援が大きく不足している。
		40代	<ul style="list-style-type: none"> 郷土文化館などの文化施設
		50代	<ul style="list-style-type: none"> 女性の登用
		60代	<ul style="list-style-type: none"> このように財政が厳しいのに単に国が人事院勧告によって給与を上げたから、市もそしてこれは行政だけでなく議会も歳費を上げる感覚には怒りを覚えます。市民に財政が厳しいから〇〇ができないという言い方を行政のほうはよくされますが、一方では自分たちの歳費を平気に上げる。これでは行政が改善すると言われても信用できません。
小田原市外	男	30代	<ul style="list-style-type: none"> すべての施策、対応に対するスピード感。
		50代	
		60代	<ul style="list-style-type: none"> インフラの老朽化対応 行政は民間と同じ立場で行政運営をすべきです。
	70代	<ul style="list-style-type: none"> 職員さんの質向上が必要では。市のグランドデザインなし。 周辺町との鉄道等による交通対策、若齢者人口確保。 	
	女	50代	<ul style="list-style-type: none"> 業務のスリム化
	不明	男	40代
70代			<ul style="list-style-type: none"> 課長、部長職となってからの意識変革

県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

V 小田原が将来にわたり持続可能な都市経営に必要と思われるものは何とお考えですか。

V 小田原が将来にわたり持続可能な都市経営に必要と思われるものは何とお考えですか。			
小田原市内	男	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・街並み整備 ・旧町村への自治区設定
		40代	<ul style="list-style-type: none"> ・観光、文化GDP強化 ・経営、経済経営 ・社会増減及び自然増減人口の徹底分析と人口の確保。人口減の場合、地方交付税等依存財源における収入に影響するため。
		50代	<ul style="list-style-type: none"> ・流入人口の増加施策 ・都市としての魅力づくり ・住みやすい町づくり ・都市経営をする職員の教育レベルの水準を上げること ・無駄の削減
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な計画を責任を持った実行。地域のお金のまわり方をつくること。 ・県西2市8町を統合して徹底的な効率化を図るように。雇用拡大は観光産業に特化すること。 ・大手企業の転出防止 ・中心といえる病院の設置
		70代	<ul style="list-style-type: none"> ・工場誘致ができないか。町並みづくりをした観光。 ・生産人口の増加と観光都市として強化する。 ・高齢化となるので、地域コミュニティが絶対必要です。 ・行財政財源の確保のための施策 ・市財政の使い方 ・観光セールスの設立、拡充 ・人材
		80代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援
	女	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・市立病院の建て替え、一時保育。 ・市立病院の建て替え、市民ホールの凍結。
		40代	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれてから子育て世代、高齢化を生きてゆくモデル
		50代	
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原独自でやること。
70代			
小田原市外	男	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・観光分野の発展と少子化対策。広域的な連携。
		50代	<ul style="list-style-type: none"> ・2市8町の中心として、思いやりのある施策実行
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・理想論ではなく現実的な対応
	70代	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にネームバリューを知られる「イノベーション」と美術館の設置。文学都市構想。 ・将来、山北等吸収合併を考えると大雄山線をDMV等での延伸、東山北まで 	
	女	50代	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による地域活動
不明	男	40代	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の立地による税収増 ・観光、産業
		70代	<ul style="list-style-type: none"> ・10年先、20年先のビジョンを具体的に提示 ・何事にも一人締めをしないこと

県西地域の中心市のあり方に関するアンケート結果

VI 将来を見据え不安に思われていることは何ですか。

		VI 将来を見据え不安に思われていることは何ですか。	
小田原市内	男	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前開発、市民ホール ・合併してしまうこと。
		40代	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉 ・本当に南足柄市との合併でよいのか？特に南足柄市職員の公務員としての質が問題視されている。小田原市職員全体の質が低下するのは目に見えてしまう。
		50代	<ul style="list-style-type: none"> ・税額、公共料金の値上げ ・人口減少 ・高齢者増に伴う介護費の増嵩 ・市民の政治的無関心 ・可分所得が減少し、税金分担増になれば、生活苦の市民が増加する ・人口減。税金増税。
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・自治を行うところが弱いのではないかとということ。 ・自治体も住民も相当な覚悟を持たないと地方自治も住民生活も破たんすること。 ・人口減による小中学校の統廃合 ・行政に期待はしていないが、市民の誇りを持つこと。
		70代	<ul style="list-style-type: none"> ・年金を減らしていること。 ・市の財政の使い方 ・財政難が増加に伴い、増税化に移行するのでは ・老後
		80代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・行政運営の緊張感のなさ、スピード感のなさ。
	女	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の子育てサポートが薄いこと。児童館がなく母子、兄弟児が分離してしまうこと。 ・人口が減り、公共施設の維持費が掛かっていくこと。空家が多い。
		40代	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流出、病院
		50代	
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・日本がアメリカに追随して、戦争に加担せざるを得なくなること。
70代		<ul style="list-style-type: none"> ・税負担増なしに公共サービスが維持できるのか？ 	
小田原市外	男	30代	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎自治体のあり方すべてに関して(国策も大いに関わってくると思いますが) ・合併後の税金が心配。 ・合併を銀のピンセットとして考えておられることが気になります。(人工的に退職不補充を作ってその年の就活をする人の人生を打ち砕くことは笑い話でしょうか？)人工的に特定の人達に局所的影響を与える政策であり「分村があるから合併してもよい」とは受容し辛いと思います。特定の人達のみ限定にて受苦を強いる手続であることを強行されている点が不安です。
		50代	<ul style="list-style-type: none"> ・中心部だけの施策
		60代	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 ・この合併により南足柄市民が冷遇されることはないか。
	70代	<ul style="list-style-type: none"> ・相模湾の津波と箱根山の噴火につきる。当市はかつて熱海と箱根の便所といわれ今もイメージは生きている。 ・財政確保のための歳入 	
	女	50代	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減、高齢者増に伴う行政サービスの低下(年金や医療費など)
不明	男	40代	<ul style="list-style-type: none"> ・市の活性化
		70代	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化と財政不安 ・市民の感心度

カ 議会議員の定数及び在任等に関する小委員会 第2回会議の内容について

開催予定日 平成29年4月中旬

協議内容 ・定数及び在任の特例の適用について
・定数について
・報酬について を協議予定

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

キ 都市内分権に関する小委員会 第2回会議の内容について

開催予定日 平成29年 月中旬

協議内容 ・
・
・

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....